

## 岩手・宮城・福島 MIRAI 文学賞・映像賞 受賞者インタビュー④

小林拓夢さん (Arrangers')

✓2023 年度映像賞 『心を調律する東北「音旅」』

山下俊輔さん (なないろ)

✓2023 年度映像賞 『東北サプライズ ～胸がときめく、面白い旅へ～』

### 受賞者インタビュー：山下さん 小林さん

未来文学賞・映像賞の受賞者である山下さんと小林さんに、応募のきっかけや作品制作の過程、受賞後の感想などについてお話を伺いました。

小林さんと山下さんは同じ大学同じゼミの仲間ということで、2023 年度はゼミから 2 つのチームごとに作品に応募され、見事に 2 チームともに受賞をされました。

---

### 大学のゼミでのチャレンジ

—— 応募のきっかけについて教えてください。

山下さん：私たちは同じゼミの仲間で、広告を専攻しているゼミに所属しています。ゼミの活動の一環として、映像コンテストに参加しており、それが今回の応募のきっかけとなりました。ゼミでは広告やブランディングを学び、場所の魅力を徹底的に調査し、フィールドワークも行います。もともと東北でのフィールドワークは復興の一助になればという思いで始まりました。

—— では、先生が応募を勧めた形ですか？

小林さん：そうですね。先生が提案してくださったこともありますが、自分たちで参加したいコンテストを探し、応募を決めました。以前参加していた映像コンテストが募集を停止したため、東北の映像賞に目を向けたんです。

—— お二人とも映像制作の経験はもともとあったのですか？

小林さん：高校 2 年生の時に映像制作に出会い、それ以来趣味として続けていました。映像

が好きで、このゼミに入った理由の一つでもあります。

山下さん：私は大学の授業でミュージックビデオを制作する経験がありました。その際、エフェクトの勉強をして特撮を作ったりしましたが、カメラの設定や撮影方法はほとんどわからない状態からのスタートでした。

—— チームは何名体制で制作されたのですか？

山下さん：各チーム 14 人で進めていました。メンバー全員がそれぞれの役割を果たし、一人ひとりの力を結集して作品を作り上げました。



・インタビューにこたえていただいている山下さん

## 2年連続の応募。反省を活かし、コンセプトにこだわった。

—— 作品づくりの過程について教えてください。

小林さん：7月頃から企画を始め、メンバー全員がアイデアを持ち寄りました。その後、現地を訪れ、コンセプトを固めてから撮影場所を絞り込みました。11月上旬に撮影を行い、編集に取り掛かりました。以前、受賞できなかった経験があるので、今回は絶対に受賞したいという思いで取り組みました。



・インタビューにこたえていただいている小林さん

山下さん：スケジュール感は小林のチームとほぼ同じです。ただ、企画段階に時間をかけ、東北の魅力を考え尽くすことを重視しました。昨年の反省点を踏まえ、東北ならではの良さをしっかりと考え、映像に反映させることを心がけました。

—— 昨年の反省点から見えたものはなんだったのでしょうか

小林さん：映像技術ありきではなく、東北ならではの良さとなる素材を見つけて、それを活かす構成を考えたことです。

山下さん：改めて募集要項を見直して「本映像賞は、未来のクリエイターを見出すものではなく、地域の未来を想う若者を見出すものです」という文章がとても刺さったというか、共感しました。地域の未来について本気で考えましたね。

—— 具体的にはどのようなポイントにこだわりましたか？

小林さん：癒しというのは東北に持っているイメージをとして定着しているなど考えていました。どうやったらうまく伝えられるだろうかという議論の過程で音というキーワードがでてきました。ノイズキャンセルなどで音を遮断するような現代だからこそ、チャレンジしてみようと考えました。音の要素を取り入れることで、視聴者が現地にいるかのような体験を提供しようと試みています。また、サウンドデザインにも力を入れ、単調にならないよう工夫しました。

山下さん：私たちのチームは逆に遊び心を大切にしました。東北のリラックスした雰囲気に加え、新たな魅力を発見することを目指しました。飯野町商店街の UFO のお祭りなどはその象徴かもしれません笑。とてもワクワクしましたね。技術的には映像の切り替えや演出に工夫を凝らし、面白さを引き立てることを意識しました。



・動画内で紹介されている UFO フェスティバル

**2チームとも受賞。東北のことがもっと好きになった。**

—— 受賞した時の感想を教えてください。

山下さん：本当に嬉しかったです。人生で初めて嬉し泣きしたかもしれません。忙しい大学生活の中で、メンバー全員が努力を重ねてきたので、喜びもひとしおでした。

小林さん：バイトの休憩中に受賞の報告を受け、とても嬉しかったです。リベンジを果たせたことが本当に嬉しく、メンバー全員の努力が報われた瞬間でした。東北のことを好きになったことも大きな収穫です。

—— 二チームとも受賞したことについて、先生や仲間の反応はどうでしたか？

山下さん：先生はとても驚いていました。メールでのやり取りからも驚きと喜びが伝わってきました。

小林さん：ゼミ全体で喜びを分かち合う場が設けられ、先輩方にも報告しました。とても良い経験でした。

—— お二人は就職活動を終えているとのことですが、どのような仕事に就かれるのですか？

山下さん：映像やブランディングに関わる仕事に就きます。就職活動中も東北のことを考えて映像を作り、それが評価されて仕事に結びつきました。手を動かすよりは企画を考えることが好きなので、企画系の仕事を選びました。

小林さん：私も映像制作に関わる仕事に就きます。今回の経験を活かしていけそうです。

## **東北の好きなところ**

—— 映像に登場した場所でおすすめはどこですか？

山下さん：狐村ですね。狐村の記事をウェブで見かけて、動物が好きな私はずっと行ってみたいと思っていました。実際に行ってみて夢が叶った気分でした。狐村から近くにある蔵王（ZAOBOO）のハンバーガーも美味しく、一日で回れるコースがとても楽しかったです。

東北は、発見する楽しさに溢れている場所だと思います。また、人々の優しさや温かさも東北の魅力の一つです。期待を裏切らないどころか、それ以上の優しさを感じることができました。

小林さん：東北の好きなところは、他の観光地のようにキラキラしていないところですね。心から良いと思える場所が多く、人々の温かさも魅力的です。去年も含めて五回東北に行きましたが、毎回心に響くものがありました。観光地という映えが重視されがちですが、東北はそれ以上に心に訴える魅力があります。岩手県の和紙作りのお店の方の話方や言葉も温かみがあり印象的で、予定にはなかったのですが作品に盛り込んでしまったほどです。



・動画内で紹介されている東山紙すき館

—— 作品制作を通じて、東北の人々と多く接する機会があったのですね。

小林さん：積極的に話しかけたり、色々聞いたりしましたが、皆さん親切で、東北のことを教えてくれました。東北の人々の温かさも大好きです。

—— これから東北で行きたい場所がありますか？

山下さん：UFO フェスティバルが行われている場所にある、UFO の博物館に行きたいです。撮影時は忙しくて楽しむ余裕がなかったので、改めて訪れたいですね。

小林さん：三陸鉄道の列車に乗りたいです。撮影時に訪れましたが、観光として楽しむ余裕がなかったので、次はゆっくり楽しみたいです。

## 応募する方へのメッセージ

—— 最後に、これから応募する方へのメッセージをお願いします。

山下さん：募集要項には大事なことがたくさん詰まっています。文章がとてもきれいだなと思いました。技術の勉強だけでなく、東北について調べ、考えることが重要です。被災地から未来へという前向きな姿勢を持ちながら、自由に表現することで、東北の魅力を伝えられると思います。

小林さん：この3県は被災地というイメージですが、今回の自分たちの映像にはそういった要素はでていません。復興して未来に向かっていくという前提のもとに、自由に表現しようとする、自ずと東北の魅力は見つけられたり伝えられたりするのではないかと思います。あとはこのコンテストが東北のことをもっと好きになってもらえるきっかけになれば嬉しいです。

---

お二人のインタビューを通して、東北を訪れてみたくなるようなコンセプトを深く考え抜いた情熱が伝わってきました。これからもお二人やゼミの皆様の活躍を期待しています。

岩手・宮城・福島 MIRAI 文学賞・映像賞は2回目・3回目のご応募も大歓迎です。今年度もぜひご応募ください。